

港湾振興便り



2014. 2
第82号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ — 「健幸」都市へ、広がる輪 —
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

●『みなとオアシスもんべつ』の登録証授与式が行われました！！
(紋別市建設部港湾課)

●京都舞鶴港『クルーズ・オブ・ザ・イヤ－2013 特別賞』を受賞
(舞鶴市みなと振興・国際交流課)

●『ポート・オブ・ザ・イヤ－2013』八幡浜港が四国初の栄冠に輝く！
(八幡浜市 産業建設部 水産港湾課)

●『みなとオアシスえたじま』が本登録されました！
(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

●北九州港振興協会が開催した『平成25年度港湾セミナー』について
(北九州港振興協会)

3 お知らせ

*:

1 ポートエッセイ — 「健幸」都市へ、広がる輪 —

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

今月3日、沖縄県南城市で開かれた「健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ首長フォーラム in 南城市」に参加した。スマートウエルネスとは、健康づくりとまちづくりを徹底連携させる取り組みで、健康で幸せの意味を込めて「健幸」という字を当てている。

筑波大学大学院の久野譜也教授が提唱した取り組みで、年々輪を広げ、いまは全国で40以上の市区町がスマートウエルネスシティ首長研究会に参加している。健康で長生きは誰もが望むものと思いがちだが、健康に関心を持つ層はほとんどの調査で3割程度にとどまる。自治体はどこも健康教室・フォーラムに取り組んでいるが、実は健康に関心のない7割にはまったく手が届かないのが実情だ。

久野先生はこの現実がいち早く気づき、無関心層の7割を巻き込むには「歩いて楽しく、公共交通で移動しやすいまち」をつくることが重要と提起してきた。超高齢社会に突入したいま、寝たきりならず、健康寿命を延ばす施策は全国で喫緊の課題となっている。スマートウエルネスシティの取り組みは国からも注目され、新潟など7市と筑波大学などが共同提案した健幸都市づくりは国の総合特区に認定されている。

今回、沖縄で初めて開かれたフォーラムには同県内から10の市町村長が参加し、熱心な討議が行われた。沖縄で健幸都市への関心が高まっているのには理由がある。かつて男女共に平均寿命ナンバーワンを誇った沖縄だが、アメリカ流の食生活が広まったため、いまや女性は3位、男性はなんと30位まで順位を下げてしまった。南城市の古謝市長は「食生活の改善と共に、まちづくりから健康づくりにつなげる健幸都市が沖縄にこそ必要だ」と意義を語っていた。

まちづくりと健康づくりを連動させ、そこに食育が加われば、日本は超高齢社会を乗り切れる—そんなことを考えさせられた沖縄でのフォーラムだった。

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*~::~*:*:*:*:*:*:*:*:*:*~::~

2 トピック

::*:*:*:*:*:*:*:*~::~*:*~::~

● 『みなとオアシスもんべつ』 の登録証授与式が行われました！！

(紋別市建設部港湾課)

この度、平成26年1月24日に紋別港が道内で8番目となる『みなとオアシス「もんべつ』』として認定されました。

『みなとオアシス「もんべつ』』は、北海道遺産の流氷観光砕氷船ガリソコ号Ⅱの発着場である海洋交流館を中心に、冬季の観光資源である流氷を活用しながら、市民や観光客の交流・ふれあい拠点づくりを推進していきます。

『みなとオアシス「もんべつ」』の登録証授与式は、紋別の冬の一大イベントである「もんべつ流氷まつり」（2月8日（土））にて行いました。会場では、みなとオアシスの構成施設である氷海展望塔「オホーツクタワー」を彩るイルミネーション点灯式も行われ、多くの市民・観光客が集まりにぎわう中で、北海道開発局川合港湾空港部長から宮川紋別市長へ登録証が授与され、その後、紋別市長からみなとオアシス「もんべつ」運営協議会の竹内代表に登録証が伝達されました。今回の登録を契機に、地域の魅力を存分に発揮できる港づくりに、いっそう取り組んでいきたいと思ひます。



北海道開発局川合港湾空港部長（左）と宮川紋別市長（中）、竹内みなとオアシス「もんべつ」運営協議会代表（右）



流水観光砕氷船「ガリンコ号Ⅱ」と氷海展望塔「オホーツクタワー」

●京都舞鶴港『クルーズ・オブ・ザ・イヤー2013 特別賞』を受賞

（舞鶴市みなと振興・国際交流課）

京都舞鶴港は、日本海側拠点港「外航クルーズ部門」選定以降、国内はもとより、外国のクルーズ客船誘致にも力を注いでいるところです。

2013年の京都舞鶴港は過去最大のクルーズ客船「サン・プリンセス」（7万7千トン）の初寄港を含め年間7回の寄港があり、セレモニーでは、高校生らが大きな紙に「順風満帆」など4枚の作品を書き上げる書道パフォーマンスを披露。乗客の方からは「あの作品は持って帰りたいくらいでした」と喜びのメールをいただくなど、地域を挙げた“おもてなし”を行った結果が評価され、クルーズ・オブ・ザ・イヤーの特別賞を受賞いたしました。



「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2013」授賞式



サン・プリンセス ふ頭で”おもてなし”

今年は邦船3船のほか「ダイヤモンド・プリンセス」(11万6千トン)や「ロストラル」(10,944トン)の初寄港など昨年を上回る寄港が予定されています。

クルーズ客船の今後の展望や寄港時のホスピタリティの向上と、クルーズ客船に対する理解と関心を高めるためクルーズセミナーを開催するなど、「京都舞鶴港から1万人」を目標に「京都の海の玄関口」としてさらなる客船誘致に取り組んで参ります。

●『ポート・オブ・ザ・イヤー2013』八幡浜港が四国初の栄冠に輝く！

(八幡浜市 産業建設部 水産港湾課)

温暖な気候と豊かな自然が育んだ農水産物に恵まれた我が町の八幡浜港が、2013年の「ポート・オブ・ザ・イヤー※」に選ばれました。

八幡浜港では、平成25年4月にオープンした「みなとオアシス八幡浜みなと」を地域活性化の拠点として、ユニークな取り組みや提案を全国に発信して、みなとの元気を高め、観光・文化・産業の発展に寄与したことが認められ、今回、四国で初となる名誉ある賞を頂くことができました。

八幡浜港みなとまちづくり協議会が地元の食材を使った「港弁(みなとべん)」の開発に取り組み商品化したプロジェクトや、平成25年7月に北海道苫小牧市で開催された「みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」で「八幡浜みなと」が出品した「じゃこカツ」がグランプリに輝いたことなども評価されたとお聞きし、大変光栄に思います。

今後も、地元と協力し、港の利用促進と地域振興に大きく貢献していきたいと思っています。

※「ポート・オブ・ザ・イヤー」とは、港湾の物流、人流、産業、観光、みなとまちづくり等の各種の港湾活動その他みなとに関する話題づくりにその年で最も優れ、我が国の港湾・臨海部の活性化に寄与し、「みなとの元気」を高めた港湾に贈られる賞で、毎年全国から1つの港湾が情報誌『港湾』読者の投票により選定されます。



【八幡浜みなと全景】



【八幡浜港全景】

●『みなとオアシスえたじま』が本登録されました！

(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

平成26年1月24日に「みなとオアシスえたじま」が本登録され、2月2日に開催された「江田島市カキ祭り」の会場で登録式典が行われました。

当日は心配された雨も上がり、寺田稔衆議院議員、平口洋衆議院議員ご臨席のもと、中国地方整備局尾藤副局長から江田島市 田中市長へ登録証が交付されました。



中国地方整備局尾藤副局長(左) 江田島市 田中市長(右)



登録式典の様子

設置港湾の小用(こよう)港は、広島港から高速船、呉港からは高速船・フェリーで結ばれる江田島市東部の主要港として、年間約175万人の乗降客数があります。「みなとオアシスえたじま」では、市民団体や行政で構成する「みなとオアシスえたじま運営協議会」が主体となって定期的なイベントを開催し、観光客と地元住民の交流の場や、地場産業や伝統芸能に触れる機会を提供することにより、地域の活性化を図ります。

「みなとオアシスえたじま」は広島県内7港目の本登録港となりました。広島港湾・空港整備事務所では「みなとオアシス」を通じた「みなとまちづくり」の取り組みに対して、引き続き協力・支援を行っていきます。

●平成25年度 港湾セミナー（北九州港）を開催しました

(一般社団法人 北九州港振興協会)

平成26年1月21日(火)、リーガロイヤルホテル小倉で港湾セミナーが開催され、約130人が参加しました。

今年度は、横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター特任教授の宮本卓次郎氏に「北九州港の展望」と題してご講演いただきました。

先生は船舶の大型化による港町の変化や国の施策の変化について説明しました。続いて、東九州自動



港湾セミナーの様子

